

## 滋賀県立高等学校再編計画(原案)説明会 意見概要 < 甲賀会場 >

日 時 平成23年(2011年)8月6日(土) 14:30~16:50  
場 所 サントピア水口 教養文化室(参加者81名:発言13名)  
主 な 意 見 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

信楽高校は経済産業大臣指定の伝統的工芸品である。滋賀をアピールする点で信楽焼は大変な役割を果たしている。滋賀県は知らなくても信楽焼は知らないという人はいない。それを学ぶ信楽高校をなくすというのは疑問。

地域資源を生かした教育、特色ある学校再編であれば、信楽は稀に見る特色のある学校。廃校に万が一なるのならば、今回の趣旨に逆行していると思う。

信楽高校の分校化案は、信楽高校を廃校にする布石に思える。かつての分校の生徒の劣等感はずさまじいものがあった。独立した時、3学級だが3つの学科がある特色のある学校だから胸を張れ、がんばれと生徒に言った。そうした人達が信楽焼を支えてきた。それをなくすのは、信楽そのものを抹殺しようとしていると思える。もう一度、教育の範囲だけでなく、地域そのものをどう盛り上げていくのか、特殊な学校として見ていかないと心配でならない。

信楽は芸術家、建築家いろんな人が訪れる場所。そういう人達と触れ合って、文化を受け継いでいる。分校化して信楽にしかできない教育環境が得られるのか。

陶芸の森という世界に情報発信する基地があるのに、分校化という退化する方向は理解に苦しむ。「もったいない」の一環で教育分野も切り捨てるのか。

子どもが普通科の1年生であるが、少人数指導で満足している。当初は不安もあったが、朝学習などにより進学できる学力も保障されている。進学者も増えている。大規模校が良くて小規模校がダメというのは間違っている。

高校が成り立つためには教育委員会がもっとどうすれば人数を増やせるか、地場産業と連携できるか考えるべき。

5名を県外から生徒を募集してなぜ発展するのか。もっと専門的にして大学まで作るくらいの大きな構想をして欲しい。

信楽町の子どもは少ないが、信楽中学校からの生徒だけではない。町外からも来ている。今後県外からも募集するのであれば、まず、県外からもっとたくさん入学希望者を募ってから議論して欲しい。

信楽高校への入学者は確かに少ないが、年配の人でも学びたいという人が多いので、通信課程を設けて広く生徒を募集すればよい。

分校化で本校との連携を図るといいうが、連携はぴんと来ない。両校のアイデンティティは違う。交流も交通や時間の問題があり出来ないと思う。独自の活動で魅力と活力を目指して成果も上げてきた。本校との連携で活力がでたのではない。

分校化で距離が20キロもある本校とバスで交流など、連携は無理だと思う。子ども達が胸を張って信楽高校出身と言えるような高校にしていくことを考えて欲しい。再編原案は白紙に戻してほしい。

セラミック、窯業についての学習は高校の3年間ではできない。これをデザインと一つにして、3年間で二つに割って学ぶことは無理である。信楽の発展には技術力の継承やアイデアが必要な中、専門的に掘り下げて勉強するのが大事。薄く広くの学習で、求められている人材は育つとは思えない。

信楽高校は県立学校であると同時に、信楽焼という地場産業を支える人材育成を目指した学校である。説明でも地域の教育資源を活かす、地場産業に寄与する人材育成、地域づくり

と出ていた。再編計画を作成する前に信楽の地場産業の関係者、信楽高校の教員等から意見の聞き取り調査はしたのか。

信楽高校の現状について、部活動、地域との連携等一生懸命行っている。見ていないのか、報告を受けていないのか、認識不足なのか。

甲南高校と信楽分校を合わせて6学級というのは数合わせに思う。

人数が多いから活性化、人数が少ないから活力がないのか。7学級の学校より信楽高校の生徒に活力がない、生き生きしていないということはない。分校化で連携というが、信楽高原鉄道は1時間に1本しかない。連携の取り方、具体的方法がない。

分校化することによる活性化、魅力化とはどういうことか分からない。分校から本校になって活力は考えられるが、本校から分校になって活性化するとは思えない。

再編計画の白紙撤回を求めたい。内容が十分考えられていない。根拠、検証もない。進め方、地元の声、保護者等の声を反映していない。同窓会長、業界、保護者、ほとんど全てが分校化に反対。改めてみんなの意見を聴いて欲しい。強く要望する。

石部高校が残るのはうれしいが、福祉の現場にいる者として、協力等の話は来ていない。全面的に協力するスタンスでいるが、地域の福祉施設に対しても構想を具体的に話して欲しい。

再編計画の資料に中学校卒業予定者数のグラフはあるが、なぜ特別支援学校の人数予測の資料がないのか。一緒に特別支援学校の大規模対策の基礎データも示すべき。そうしないと保護者も分からない。

知的軽度の生徒を分教室へとのことだが、現状は学年制ではなく、1学年だけ移動するというのは、現場を知らずに一方的。知的軽度だが高等養護学校の生徒よりも重い障害。同じような感覚で、学年制でいけるというのは疑問。

大規模化への対応は小細工、少しの移動では変わらない。草津養護学校、野洲養護学校の大規模化への対応、高等養護学校の設置のほうが大事。新しい学校の設置が必要。

世の中が今回の震災、原発問題で、経済的な豊かさを求めていたが、心豊かな生活を求めなければならないと価値観が変わった。腰を据えて日本、滋賀の教育を考え直すことが求められている。その前の計画案は白紙に戻すべき。